

# ECONOMY TOPICS

## 経済トピックス

2018.11.2

No.453



### 業況 BSI 再び低下、5 期連続マイナス圏 (2018 年 7～9 月期の県内企業業況調査結果)

**調査内容** 2018 年 7～9 月期の県内企業の業況実績  
2018 年 10～12 月期の県内企業の業況見通し

**調査時期** 2018 年 10 月上旬

**調査対象企業** 県内中堅企業 324 社

**回答企業** 240 社 (回収率:74.1%)

製造業 56 社 建設業 43 社 卸売業 57 社

小売業 32 社 運輸業・サービス業 52 社

青森地区 89 社 津軽地区 71 社 県南地区 80 社

BSI とは

Business Survey Index の略であり、企業業況判断指標という意味である  
指標の求め方は次の通り

BSI = 「業況良好企業及びやや良好企業の割合」 - 「業況不振企業及びやや不振企業の割合」

注:業況判断は前年同期との比較による

# 1. 2018年7～9月期の業況

## (1) 業況 —再び低下、5期連続マイナス圏—

2018年7～9月期の全産業「業況BSI」は前期比10.1ポイント低下の△16.3と再び低下し、5期連続マイナス圏となった。

業況判断の内訳をみると、業況好転とした企業の割合が同1.7ポイント減少の22.5%、業況悪化とした企業の割合は同8.4ポイント増加の38.8%となった。

産業別の「業況BSI」をみると、製造業が前期比1.0ポイント上昇の△12.5となった。食料品、印刷、生コン、鉄鋼などで好転割合が増加した。

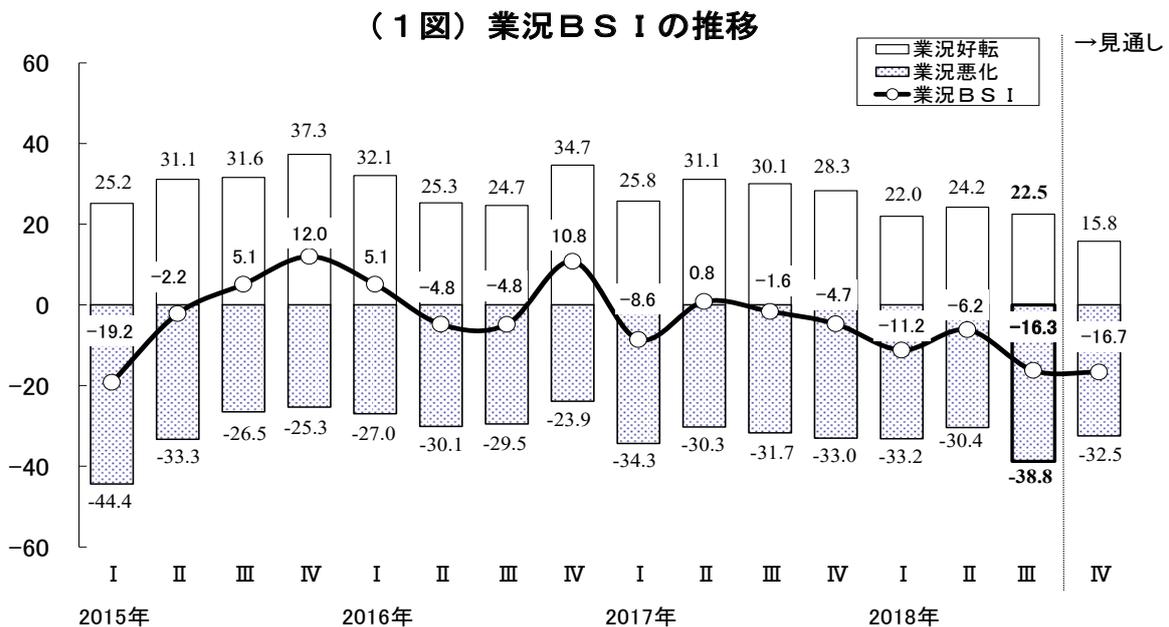
非製造業は、すべての業種で悪化した。卸売業が前期比22.2ポイント低下の△31.6、小売業は同14.8ポイント低下の△43.8、運輸・サービス業が同13.6ポイント低下の△

3.8、建設業が同0.3ポイント低下の4.7となった。

卸売業は、繊維、建築材料、機械器具、などで悪化割合が増加した。小売業は自動車、事務用品、燃料、家電などで悪化が広がった。運輸・サービス業は、鉄道、道路貨物運送、ガス、情報サービス、宿泊などで悪化割合が増加した。建設業は、職別工事と設備工事で好転が広がったものの総合工事で好転割合が減少した。

当期は、製造業がやや上昇したものの、非製造業は全ての業種で悪化し、全体を押し下げた。

(以上、1図、付表 参照)



(付表) 産業別業況BSIの推移

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
2017年 7 - 9 月期	15.5	-7.1	-24.1	-17.1	15.8	-1.6
10 - 12 月期	-3.7	2.4	-28.0	-8.6	13.5	-4.7
2018年 1 - 3 月期	-18.5	7.7	-28.0	-15.2	0.0	-11.2
4 - 6 月期	-13.5	5.0	-9.4	-29.0	9.8	-6.2
<b>7 - 9 月期</b>	<b>-12.5</b>	<b>4.7</b>	<b>-31.6</b>	<b>-43.8</b>	<b>-3.8</b>	<b>-16.3</b>
来期見通し	-14.3	-9.8	-12.7	-41.9	-13.7	-16.7

## (2) 採算の状況 —「採算BSI」前期比横ばい、7期連続マイナス圏—

2018年7～9月期の全産業「採算BSI」は、前期比横ばいの△11.9となり、7期連続マイナス圏となった。

採算判断の内訳をみると、採算好転とした企業の割合は同1.1ポイント増加の8.4%、一方、採算悪化とした企業の割合は同1.0ポイント増加の△20.3%となった。

産業別の「採算BSI」をみると、製造業は前期比4.3ポイント低下の△16.1となった。食料品、飲料で好転がみられたものの、パルプ・紙、生コン、電子部品・デバイスで悪化割合が増加した。

非製造業は、運輸・サービス業、建設業で好転し小売業、卸売業で悪化した。運輸・

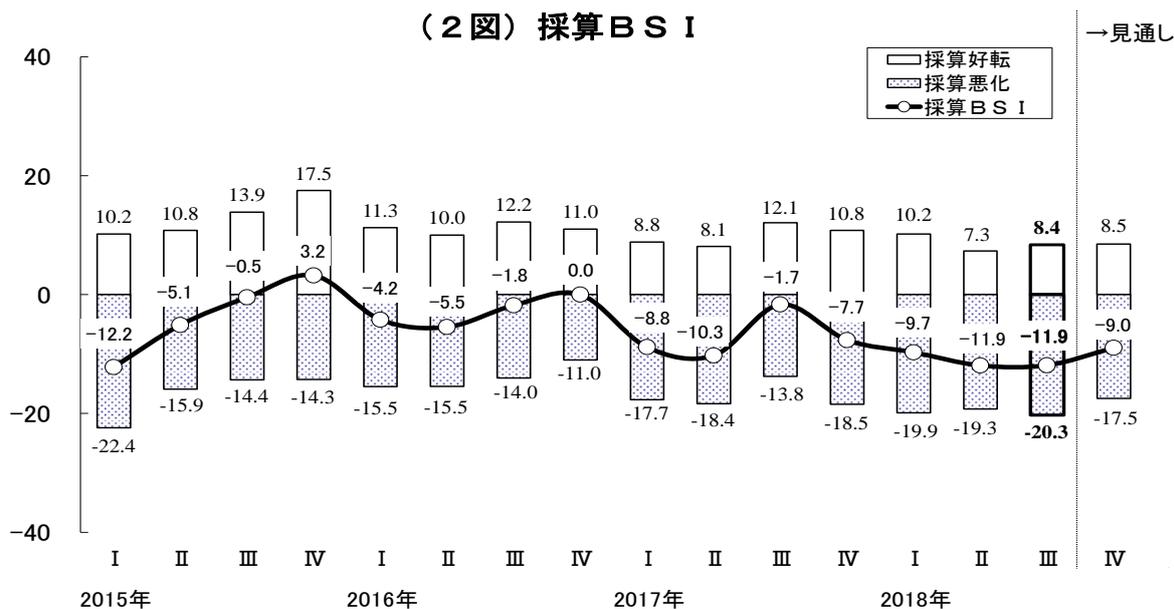
サービス業が前期比6.0%上昇の△6.5、建設業が同5.3%上昇の0.0となった。

一方、小売業は同4.1ポイント低下の△24.1、卸売業は同2.7ポイント低下の△14.5となった。

運輸・サービス業は、道路貨物運送で悪化割合が減少した。建設業は、総合工事と設備工事で好転が幾分広がった。一方、小売業は、百貨店、船舶機械などで悪化がみられた。また、卸売業も衣料品、飲食料品、建築材料で悪化割合が増加した。

当期の「採算BSI」は、建設業、運輸・サービス業で好転がみられたものの、製造業、小売業、卸売業が前期を下回った。

(以上2図、付表参照)



(付表) 産業別採算BSIの推移

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
2017年 7 - 9 月期	1.7	-10.0	-9.6	2.9	5.5	-1.7
10 - 12 月期	-7.4	-5.0	-14.0	-3.1	-6.5	-7.7
2018年 1 - 3 月期	-13.0	-3.0	-6.0	-12.1	-13.0	-9.7
4 - 6 月期	-11.8	-5.3	-11.8	-20.0	-12.5	-11.9
<b>7 - 9 月期</b>	<b>-16.1</b>	<b>0.0</b>	<b>-14.5</b>	<b>-24.1</b>	<b>-6.5</b>	<b>-11.9</b>
来期見通し	-3.6	-12.5	-3.7	-17.2	-13.3	-9.0

(3) 生産高・操業度の状況 —「生産高 BSI」、「操業度 BSI」とも 4 期ぶりに上昇—

2018 年 7～9 月期の製造業の「生産高 BSI」は前期比 15.4 ポイント上昇の 5.6 と、4 期ぶりに上昇した。

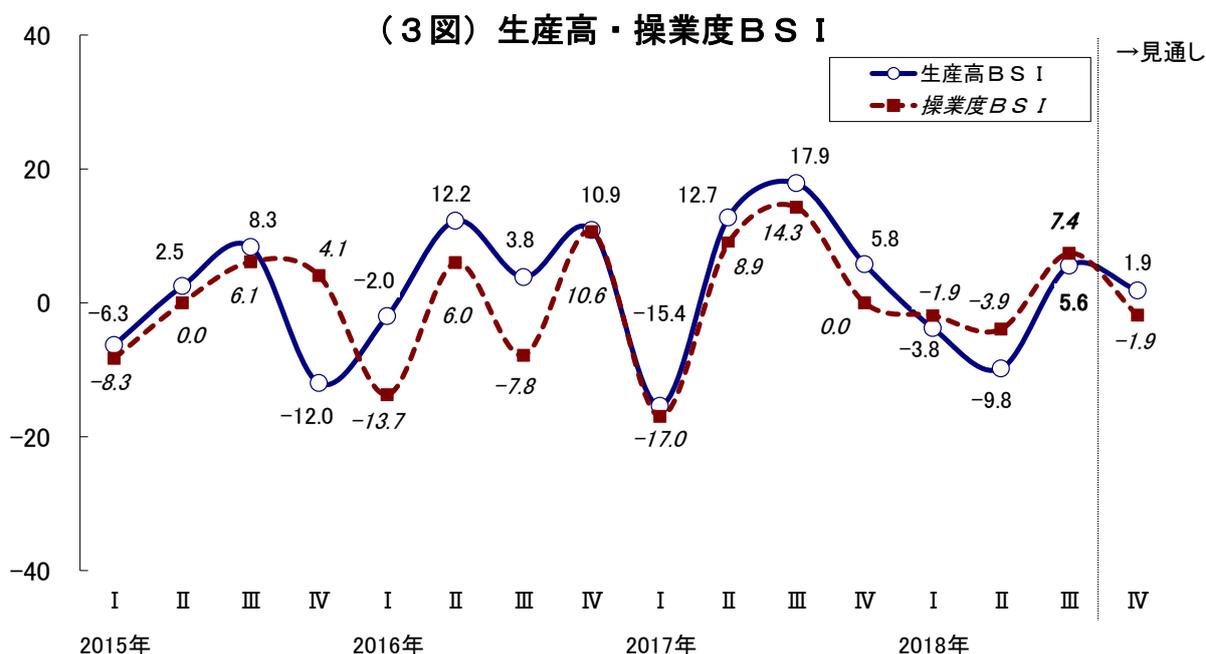
「操業度 BSI」は同 11.3 ポイント上昇の 7.4 と、4 期ぶりに上昇した。

飲料、パルプ・紙、印刷、一般機械で増産となった。

また、飲料、印刷、生コン、一般機械、電子部品・デバイス、造船などで稼働率が上昇した。

来期は「生産高 BSI」が当期比 3.7 ポイント低下の 1.9、「操業度 BSI」が同 9.3 ポイント低下の△1.9 となる見通しである。

(以上、3 図 参照)



#### (4) 受注高の状況 —「受注高 BSI」再び上昇—

2018年7～9月期の建設業の「受注高 BSI」は前期比 5.2 ポイント上昇の△2.3 となり再び上昇した。

内訳をみると、受注増加とした企業の割合が同 6.7 ポイント減少の 23.3%、一方、受注減少とした企業の割合は同 11.9 ポイント減少の 25.6%となった。

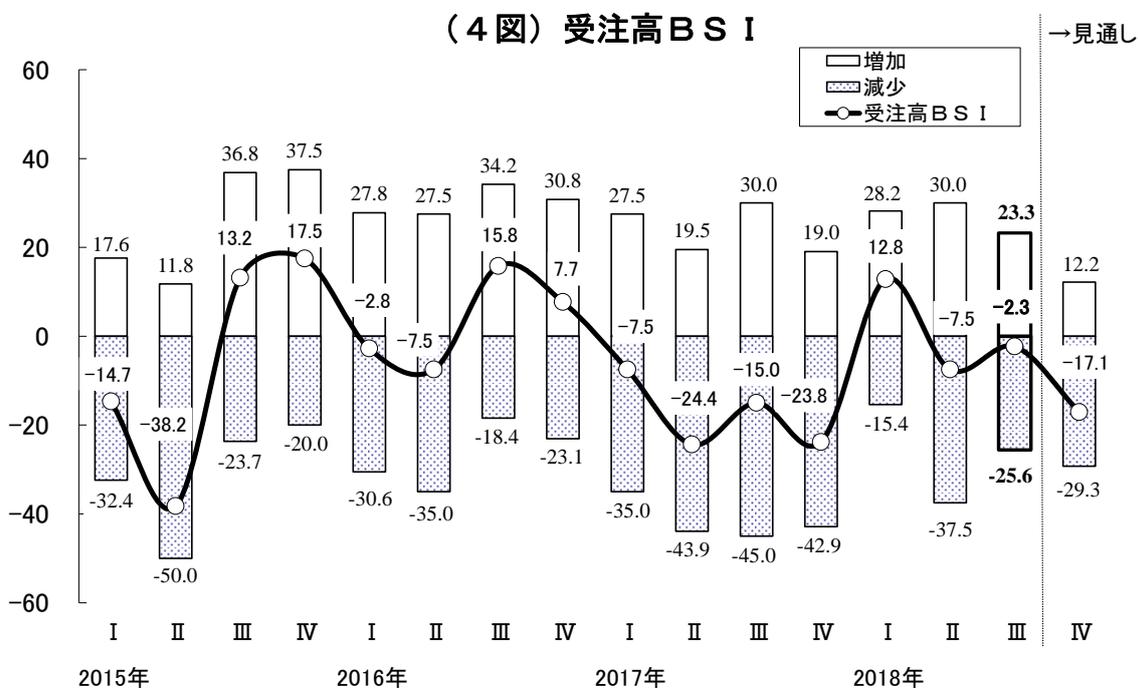
当期は、総合工事で受注減少割合が増加したものの、設備工事で受注増加が広が

り全体を押し上げた。

来期の「受注高 BSI」は同 14.8 ポイント低下の△17.1 となる見通しである。

内訳をみると、受注増加とする割合が当期比 11.1 ポイント減少の 12.2%、受注減少とする割合が同 3.7 ポイント増加の 29.3%と見込まれている。職別工事と設備工事で落ち込みが見込まれる。

(以上、4 図 参照)



## (5) 売上高・出荷高の状況 —「売上高BSI」、「出荷高BSI」とも低下—

2018年7～9月期の「売上高BSI」は、前期比1.0ポイント低下の△13.6となり、再び低下した。

産業別の「売上高BSI」をみると、卸売業が同7.4ポイント低下の△26.3となった。一方、小売業は同10.4ポイント上昇の△21.9となった。なお運輸・サービス業は、前期比横ばいの5.9となった。

卸売業は、食料品で売上げの増加がみられたものの、建築材料や機械器具のほか、灯油や穀物などのその他の卸売業で減少がみられた。一方、小売業は、自動車、食料品などで増加した。運輸・サービス業は、道路貨物運送で売上増加がみられた一方、鉄道業、旅客運送業で減少がみられた。

なお、来期の「売上高BSI」は、全体では

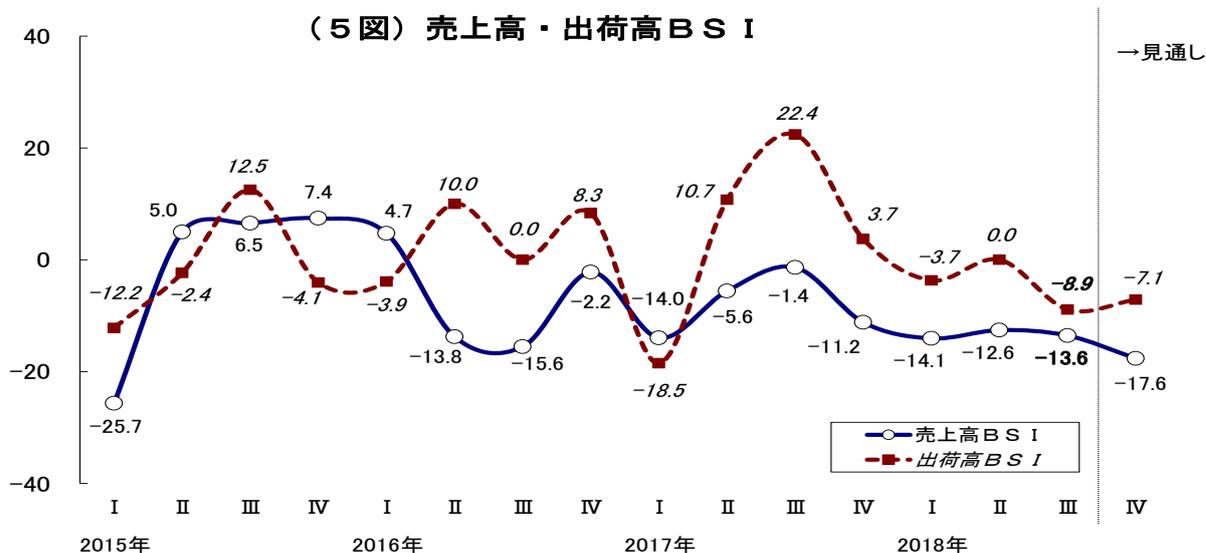
当期比4.0ポイント低下の△17.6となる見通しである。運輸・サービス業では、道路貨物運送などで減少が見込まれる。小売業では、自動車で減少が見込まれる。一方、卸売業では、機械器具や、古紙や燃料などのその他の卸売業で減少割合の低下が見込まれる。

2018年7～9月期の「出荷高BSI」は前期比8.9ポイント低下の△8.9と再び低下した。

印刷、一般機械で出荷増加がみられたものの、食料品、飲料、化学、非鉄金属などで出荷減少がみられた。

来期の「出荷高BSI」は、当期比1.8ポイント上昇の△7.1となる見通しである。食料品と飲料などで出荷増加が見込まれる。

(以上、5図、付表 参照)



(付表) 売上高・出荷高BSIの推移

	出荷高BSI	売上高BSI			
	製造業	卸売業	小売業	運輸・サービス	
2017年 7 - 9 月期	22.4	-14.8	-14.3	19.6	-1.4
10 - 12 月期	3.7	-22.4	-22.9	8.0	-11.2
2018年 1 - 3 月期	-3.7	-26.5	-9.4	-5.6	-14.1
4 - 6 月期	0.0	-18.9	-32.3	5.9	-12.6
<b>7 - 9 月期</b>	<b>-8.9</b>	<b>-26.3</b>	<b>-21.9</b>	<b>5.9</b>	<b>-13.6</b>
来期見通し	-7.1	-13.0	-25.0	-18.0	-17.6

## (6) 価格の状況—「仕入単価BSI」と「販売単価BSI」の乖離幅、再び拡大—

2018年7～9月期の「仕入単価BSI」は前期比9.3ポイント上昇の51.7となり、6期連続で上昇した。

産業別にみると、製造業が同3.5ポイント上昇の55.4、非製造業は同11.9ポイント上昇の50.0となった。

製造業は、食料品、飲料、パルプ・紙、衣料品、化学、生コン、一般機械、電子部品・デバイス、造船など大半の業種で上昇がみられた。

非製造業は、建設業が前期比19.7ポイント上昇の43.2、卸売業が同14.2ポイント上昇の58.2、一方、小売業は同2.5ポイント低下の42.3となった。

建設業は、総合工事、職別工事、設備工事のすべてで上昇割合が増加した。卸売業は、飲食料品、建築材料などで上昇がさらに広がった。一方、小売業は自動車などで低下がみられた。

2018年7～9月期の「販売単価BSI」は前期比4.6ポイント上昇の16.2と6期連続で上昇した。

産業別にみると、製造業が同4.3ポイント上昇の16.1、非製造業は同4.7ポイント上

昇の16.3となった。

製造業は食料品、生コンなどで販売単価の上昇割合が増加した。

非製造業は、小売業が前期比15.4ポイント上昇の21.9、建設業が同9.3ポイント上昇の△2.8、卸売業が同3.8ポイント上昇の25.0となった。一方、運輸・サービス業は同4.1ポイント低下の16.7となった。

小売業は、飲食料品、自動車、燃料で上昇がみられた。建設業は、総合工事、設備工事で上昇がみられた。卸売業は、飲食料品、建築材料、機械器具などで上昇がみられた。一方、運輸・サービス業は、道路貨物運送、不動産賃貸、貸金、宿泊、介護などで低下がみられた。

当期は、「仕入単価BSI」と「販売単価BSI」との乖離幅が35.5となり、前期の30.8を4.7上回り再び拡大した。

なお、来期については「仕入単価BSI」が当期比4.6ポイント低下の47.1、「販売単価BSI」が同2.9ポイント低下の13.3となり、両単価の乖離は33.8と当期より1.7縮小する見通しである。

(以上、6図、付表 参照)

(6図) 仕入単価・販売単価BSI



(付表) 仕入単価BSIの推移 (上昇-低下)

	製造業				非製造業	仕入単価 BSI
		建設業	卸売業	小売業		
2017年 7 - 9 月期	40.4	12.8	32.1	27.3	24.8	29.7
10 - 12 月期	50.0	30.0	25.0	29.0	27.7	34.7
2018年 1 - 3 月期	41.5	25.0	51.1	41.4	40.2	40.6
4 - 6 月期	51.9	23.5	44.0	44.8	38.1	42.4
7 - 9 月期	55.4	43.2	58.2	42.3	50.0	51.7
来期見通し	51.8	40.5	48.1	44.0	44.8	47.1

(付表) 販売単価BSIの推移 (上昇-低下)

	製造業				運輸・ サービス	非製造業	販売単価 BSI
		建設業	卸売業	小売業			
2017年 7 - 9 月期	1.8	-5.4	-1.9	20.0	-1.8	1.7	1.7
10 - 12 月期	3.8	-2.6	22.4	-2.9	4.2	6.4	5.8
2018年 1 - 3 月期	1.9	2.9	26.5	15.6	-1.9	10.7	8.6
4 - 6 月期	11.8	-12.1	21.2	6.5	20.8	11.6	11.6
7 - 9 月期	16.1	-2.8	25.0	21.9	16.7	16.3	16.2
来期見通し	19.6	-11.1	23.6	19.4	8.3	11.2	13.3

## (7) 在庫投資・在庫水準の状況 — 製造業、非製造業とも積み増し —

2018年7～9月期の「在庫投資BSI」は、製造業が前期比3.3ポイント上昇の7.1、非製造業は同8.6ポイント上昇の9.8となった。

製造業は、生コン、一般機械などで手控えの動きがみられたものの、食料品、飲料で積み増しの動きがみられた。

非製造業は、卸売業では青果物、建築材料など、小売業では、衣料品、飲食料品、自動車などで積み増しの動きがみられた。

来期の「在庫投資BSI」は、製造業が当期比横ばいの7.1と積み増しの動きが続くと見込まれる一方、非製造業は同9.8ポイント低下の0.0と手控えの動きがみられる。

2018年7～9月期の「製品・商品在庫水準BSI」は、製造業が前期比8.9ポイント低下の△8.9、卸・小売業が同4.0ポイント低下の3.7となった。

製造業では、食料品、飲料、木材で過剰がみられた。

非製造業では、衣料品で過剰がみられたものの、青果物、水産物、自動車で不足がみられた。

来期は、製品では、食料品、飲料、鉄鋼などで不足感が見込まれる。一方、商品では、水産物、穀物、自動車などで不足感が幾分みられるものの、ほぼ適正水準が見込まれる。(以上、7図、付表 参照)

(7図) 在庫投資BSI (製造業、非製造業)



(付表) 在庫関連BSIの推移

	在庫投資BSI		製品・商品在庫水準BSI	
	製造業	非製造業	製造業	卸・小売業
2017年 7 - 9 月期	19.0	7.2	-3.4	5.9
10 - 12 月期	11.1	1.2	-1.9	9.9
2018年 1 - 3 月期	1.9	7.7	-9.3	9.2
4 - 6 月期	3.8	1.2	0.0	7.7
<b>7 - 9 月期</b>	<b>7.1</b>	<b>9.8</b>	<b>-8.9</b>	<b>3.7</b>
来期見通し	7.1	0.0	-7.3	2.5

## (8) 設備投資の動向 —製造業はやや低下、非製造業は上昇—

2018年7～9月期の「設備投資BSI」は、製造業が前期比0.9ポイント低下の8.9、非製造業は同5.7ポイント上昇の1.2となった。製造業では、飲料、化学、鉄鋼、電子部品・デバイス、精密機械が低下した。非製造業では、建設業の総合工事で減少割合が低下したほか、卸売業の飲食料品などで上昇した。

製造業は、食料品で生産設備他、パルプ・紙で老朽化更新、化学で維持更新、精密機械でメッキ装置改造他などの動きがみられた。

非製造業をみると、建設業では、重機などの投資がみられた。

卸売業では、建築材料で土地・建物取得、鋼材加工機械などの投資がみられた。

小売業ではスーパーで既存設備の維持・更新など、自動車で拠点整備などの投資がみられた。

運輸・サービス業では道路貨物運送で車両購入、営業所新設、賃貸住宅建設、ガスでガス管入替等の投資がみられた。

来期の「設備投資BSI」は、製造業が当期比17.8ポイント低下の△8.9、非製造業が同7.7ポイント低下の△6.5が見込まれている。

なお今後6カ月間では、食料品で生産設備、飲料で加工センター新築、パルプ・紙で省エネルギー設備、生コンで生コンクリートプラント設備、鉄鋼で生産能力増強、精密機械でメッキ装置増設、建設で重機、車両購入、飲食料品卸でセンター構築、穀物卸で倉庫新築、スーパーで店舗新築、改装、自動車販売で店舗改修、道路貨物運送で賃貸オフィス買取、倉庫建設などが予定されている。

(以上、8図 参照)

(8図) 設備投資BSI (製造業、非製造業)

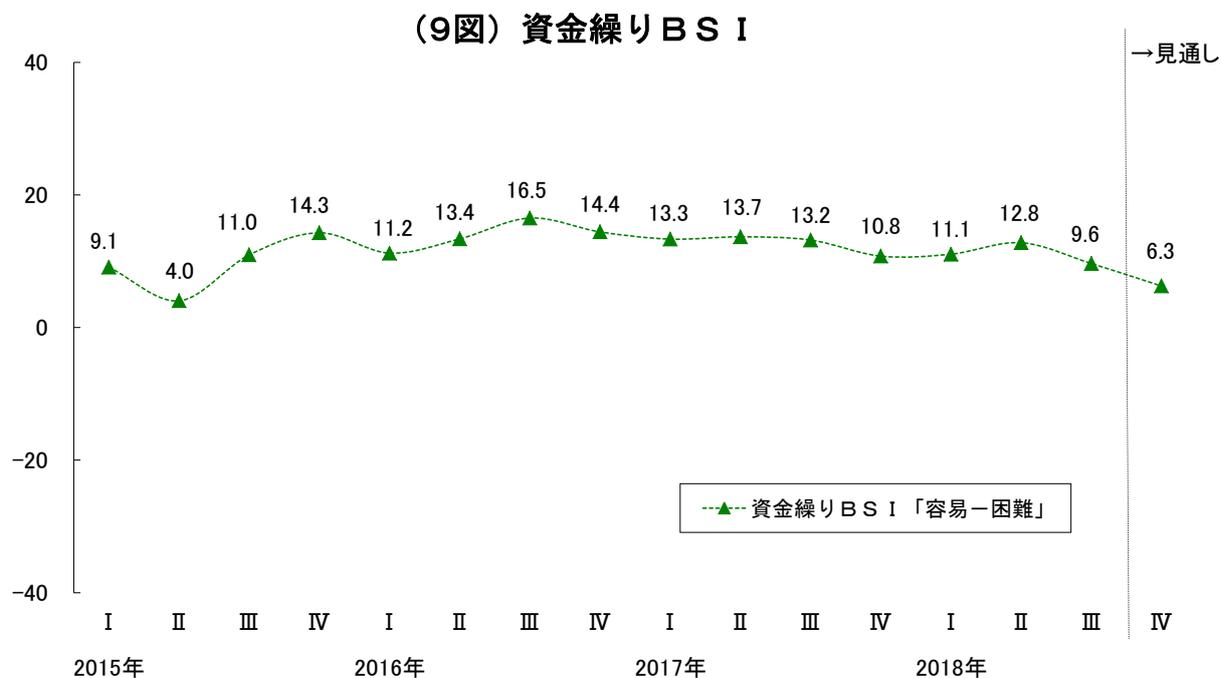


(9) 企業金融の動向 —資金繰りの容易さやや低下—

2018年7～9月期の「資金繰りBSI」は前期比3.2ポイント低下の9.6となり、手元資金の資金繰りの容易さがやや低下した。

来期は当期比3.3ポイント低下の6.3となる見通しであるが、全体にはほぼ適正範囲内での動きが見込まれている。

(以上、9図、付表 参照)



(付表) 資金繰りBSIの推移

	資金繰りBSI (容易-困難)
2017年 7 - 9 月期	13.2
10 - 12 月期	10.8
2018年 1 - 3 月期	11.1
4 - 6 月期	12.8
<b>7 - 9 月期</b>	<b>9.6</b>
来期見通し	<b>6.3</b>

(10) 地区別の状況 —「業況BSI」すべての地区で低下—

・青森地区

「業況BSI」が前期比13.3ポイント低下の△18.0となった。そのほか「売上高BSI」が同3.2ポイント低下の△19.0、「出荷高BSI」が同10.6ポイント上昇の△12.5、「設備投資BSI」が同10.2ポイント上昇の3.6、「生産高BSI」が同7.7ポイント上昇の0.0、「受注高BSI」が同1.9ポイント上昇の28.6などとなった。

・津軽地区

「業況BSI」が前期比7.0ポイント低下の△29.6となった。そのほか「出荷高BSI」が同63.2ポイント低下の△78.6、「売上高BSI」が同6.7ポイント低下の△15.0、「生産高BSI」が同3.8ポイント低

下の△53.8、「受注高BSI」が同30.3ポイント上昇の△23.5、「在庫投資BSI」が同26.8ポイント上昇の14.7、「設備投資BSI」が同11.4ポイント上昇の△2.9などとなった。

・県南地区

「業況BSI」が前期比7.5ポイント低下の△2.5となった。そのほか「受注高BSI」が同8.3ポイント低下の△8.3、「設備投資BSI」が同6.7ポイント低下の7.8、「生産高BSI」が同30.8ポイント上昇の38.5、「出荷高BSI」が同11.6ポイント上昇の30.8、「売上高BSI」が同7.1ポイント上昇の△4.8などとなった。

(以上、1表参照)

(1表) 地域別BSIの推移

	業況BSI			生産高BSI			出荷高BSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
2017年 7 - 9 月期	0.0	-8.5	2.4	26.7	30.8	7.1	18.8	42.9	14.3
10 - 12 月期	-4.7	-15.2	3.7	0.0	-7.1	14.8	-8.3	-13.3	18.5
2018年 1 - 3 月期	-7.1	-19.7	-8.6	-8.3	-42.9	18.5	-8.3	-33.3	14.8
4 - 6 月期	-4.7	-22.6	5.0	-7.7	-50.0	7.7	-23.1	-15.4	19.2
7 - 9 月期	<b>-18.0</b>	<b>-29.6</b>	<b>-2.5</b>	<b>0.0</b>	<b>-53.8</b>	<b>38.5</b>	<b>-12.5</b>	<b>-78.6</b>	<b>30.8</b>
来期見通し	-25.9	-14.5	-8.8	-26.7	-15.4	26.9	-18.8	-21.4	7.7
	売上高BSI			受注高BSI			在庫投資BSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
2017年 7 - 9 月期	-3.3	0.0	0.0	28.6	-28.6	-50.0	17.9	2.8	12.2
10 - 12 月期	-20.7	-13.9	5.0	7.7	-37.5	-38.5	12.0	-2.8	4.1
2018年 1 - 3 月期	-15.8	-23.1	-2.6	23.1	0.0	14.3	6.0	8.6	2.1
4 - 6 月期	-15.8	-8.3	-11.9	26.7	-53.8	0.0	9.8	-12.1	4.1
7 - 9 月期	<b>-19.0</b>	<b>-15.0</b>	<b>-4.8</b>	<b>28.6</b>	<b>-23.5</b>	<b>-8.3</b>	<b>8.9</b>	<b>14.7</b>	<b>4.2</b>
来期見通し	-17.9	-15.8	-19.0	-33.3	-11.8	-8.3	5.5	0.0	2.1
	設備投資BSI			採算BSI			資金繰りBSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
2017年 7 - 9 月期	10.7	25.0	1.3	2.3	-7.1	-1.2	14.9	6.1	17.1
10 - 12 月期	6.3	3.2	2.6	-6.3	-14.1	-3.8	8.6	9.4	14.1
2018年 1 - 3 月期	5.3	-5.3	0.0	-13.9	-8.2	-6.6	10.1	1.6	19.5
4 - 6 月期	-6.6	-14.3	14.5	-8.5	-22.0	-7.8	14.5	3.4	17.9
7 - 9 月期	<b>3.6</b>	<b>-2.9</b>	<b>7.8</b>	<b>-8.3</b>	<b>-22.4</b>	<b>-6.6</b>	<b>8.2</b>	<b>0.0</b>	<b>19.5</b>
来期見通し	-9.8	-20.9	7.8	-8.4	-10.9	-7.9	2.4	0.0	15.6

## 2. 経営上の問題点

—「人員不足」が再び最多—

経営上の問題点は、「人員不足」が52.7%と再び最多となった。前期に4期ぶりに最多だった「競争の激化」は、「売上・受注不振」、「人材育成・技術継承」とともに37.7%と次点だった。以下、「仕入単価上昇」が35.1%、「設備の老朽化」が28.5%、「燃料価格上昇」が24.7%、「営業力不足」が21.8%、「収益低下」が18.8%など続いた。

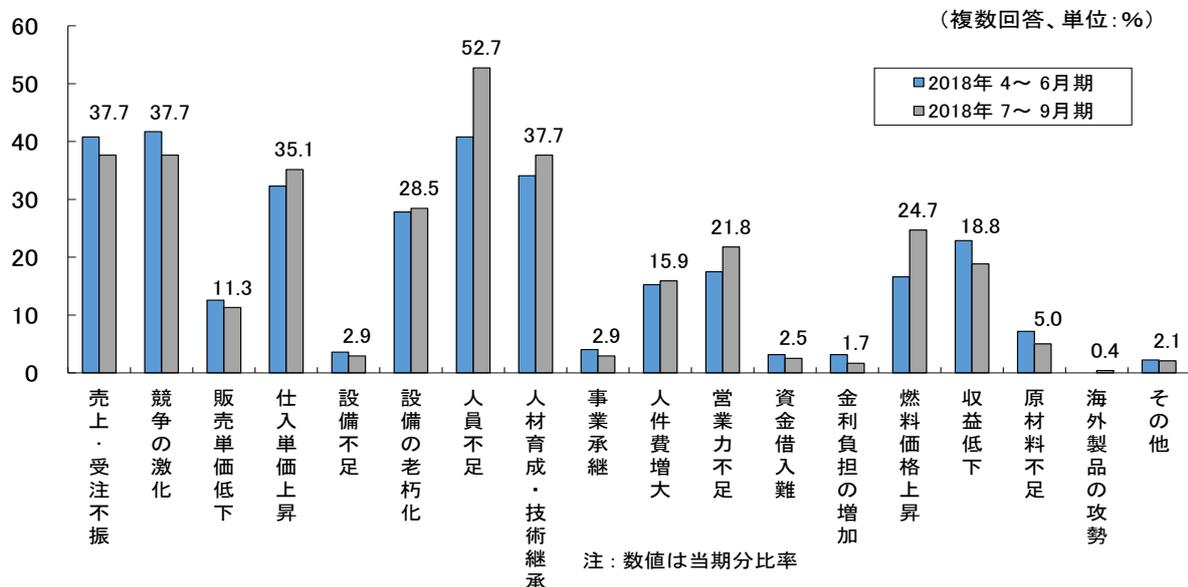
前期に比べて、「人員不足」、「人材育成・技術継承」、「仕入単価上昇」、「営業力不足」、「燃料価格上昇」などが増加した一方、「競争の激化」、「売上・受注不振」などの割合が減少した。

産業別に、トップにあげられた経営上

の問題点をみると、製造業では「仕入単価上昇」、建設業では「人員不足」、卸売業では「競争激化」、小売業では「人員不足」、運輸・サービス業では「人員不足」があげられた。また、製造業では「設備の老朽化」、建設業では「人材育成・技術継承」、卸売業では「仕入単価上昇」、小売業では「売上不振」、「競争激化」、運輸・サービス業では「設備老朽化」の割合も高かった。なお「人員不足」に関して、前期57.1%と鎮静化がうかがわれた運輸業は、今期、81.3%と再び上昇した。また建設業も76.7%と高い数値となっている。

(以上、10図、付表 参照)

(10図) 経営上の問題点



(付表) 経営上の問題点

(複数回答、単位：%)

	売上・受注不振	競争激化	販売単価低下	仕入単価上昇	人員不足	人材育成・技術継承	人件費増大	収益低下
2017年 7 - 9 月期	31.8	38.4	11.8	26.5	42.0	31.8	13.1	18.8
10 - 12 月期	35.5	44.2	10.0	29.4	50.2	39.4	14.3	24.7
2018年 1 - 3 月期	34.4	41.5	10.7	31.7	46.0	33.0	16.1	19.2
4 - 6 月期	40.8	41.7	12.6	32.3	40.8	34.1	15.2	22.9
7 - 9 月期	37.7	37.7	11.3	35.1	52.7	37.7	15.9	18.8

### 3. 来期の見通し

#### －「業況BSI」やや低下、「採算BSI」上昇－

来期(2018年10～12月期)の「業況BSI」は、全産業ベースで当期比0.4ポイント低下の△16.7となる見通しである。

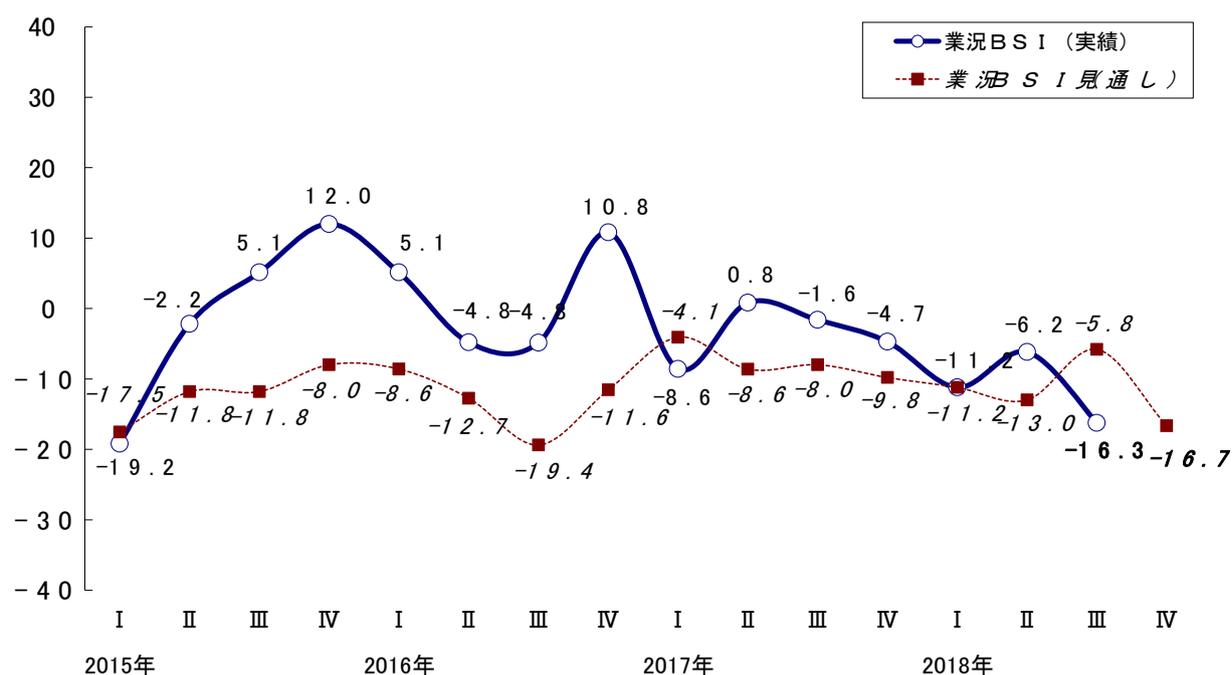
産業別では、建設業が当期比14.5ポイント低下の△9.8、運輸・サービス業が同9.9ポイント低下の△13.7、製造業が同1.8ポイント低下の△14.3となった。一方、卸売業は同18.9ポイント上昇の△12.7、小売業は同1.9ポイント上昇の△41.9と見込まれる。

来期(2018年10～12月期)の「採算BSI」は全産業ベースで当期比2.9ポイント上昇の△9.0となる見通しである。

産業別にみると、製造業が当期比12.5ポイント上昇の△3.6、卸売業が同10.8ポイント上昇の△3.7、小売業が同6.9ポイント上昇の△17.2となる見通しである。一方、建設業は同12.5ポイント低下の△12.5、運輸・サービス業は同6.8ポイント低下の△13.3となる見通しである。

(以上、11図、付表 参照)

(11図) 業況BSIの見通しと実績の推移



(付表) 業況BSI、採算BSIの来期見通し

		製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
業況BSI	2018年7～9月期	-12.5	4.7	-31.6	-43.8	-3.8	-16.3
	来期見通し	-14.3	-9.8	-12.7	-41.9	-13.7	-16.7
採算BSI	2018年7～9月期	-16.1	0.0	-14.5	-24.1	-6.5	-11.9
	来期見通し	-3.6	-12.5	-3.7	-17.2	-13.3	-9.0